

【環境教育・研究】

● 大学における環境関連科目

区分	科目	担当教員	内容	
自然環境に関わる科目	科学と環境	武田 清 工藤慎一 田村和之	科学史から出発して、科学というものがどのようなものであるか、さらに環境を理解するのに必要となる基礎的内容を理解することを目的とする。授業では、近代的科学論の紹介に加えて、現実の環境問題も取り上げることで、教育者に必要であろう自然科学観と、広範な社会的問題に対する合理的判断をのりかたを養成することを目標とする。	学部
	生活 A	田岡佳美 (嘱託講師)	学習指導要領及び生活解説書の目標や内容に基づき、生活科の理念や授業づくりのポイント、評価のあり方や教師の役割について実践事例を踏まえながらその理解を図る。	学部
	生活 B	田岡佳美 (嘱託講師)	同上。	学部
	衣生活学	福井典代	洗濯に関する基礎的な知識を習得するとともに、合理的で科学的に洗濯を実践する能力を養うことを目的とする。洗濯による環境問題にも触れる。	学部
	運動方法 VI	南隆尚 松井教典	野外運動は人間が環境への配慮の体感できると共に自由時間を有意義に過ごすために考えだされた遊びである。また学習指導要領において小学生で自然体験活動が取り扱われている。安全かつ自由で多方面に自然の中で遅く楽しく過ごす思考と技術・指導法の習得を目的とする。	学部
	栽培(実習を含む)	米延仁志	作物の播種・定植から収穫までの生産に係る管理技術を習得し、栽培環境や植物生理から科学的に植物の生育を理解する。	学部
社会環境に関わる科目	衛生学・公衆衛生学 I	宮本賢作 (嘱託講師)	衛生学および公衆衛生学の基礎的知識を習得するとともに、健康に関する最新事情を教材として、中学生に教えるという観点で説明する力を養う。また中学校保健体育科保健分野の内容を中心に、個人の健康(衛生学)及び集団の健康(公衆衛生学)について学習する。	学部
	衛生学・公衆衛生学 II	宮本賢作 (嘱託講師)	同上。	学部
	住生活学	金貞均	授業を通して、①今日の住生活や住環境を取り巻く状況や問題点を理解し説明できる、②問題解決のために客観的で科学的な対応ができる、③身近な住空間と住生活の改善・向上のための実践的態度や能力を身につけることを到達目標とする。	学部
	地誌学概論	立岡裕士	地誌学的思考法の基本を修得させることを目的とし、「環境」概念を理解すること。環境決定論の問題点を理解すること。「地域」概念を理解すること。「地域」による差異の認識の方法について理解することを目標としている。	学部
	国際教育演習	小澤大成 石村雅雄	国際教育の枠組みとアプローチについて概観したのち、地球的な課題である「環境」、「開発」、「安全」及び「グローバル社会」について文献購読を踏まえ教材を開発し模擬授業を実施・検討する。 講義のテーマは、国際教育の実践に必要な手法について地球的な課題を対象として文献購読、教材開発及び模擬授業の実施と検討を通じて理解することである。到達目標は国際教育の実践に必要な資質を身につけることである。	大学院
自然科学教育(理科)の内容構成演習 B	胸組虎胤 寺島幸生 佐藤勝幸 福地里菜	理科における教科の内容をその背景となる学問を基盤に深く理解し、それを体系づけて構成する能力を高めるために、主に生物学、地学に関する学問知とその歴史的発展を振り返り、人類がどのように自然を認識・理解し、科学を発展させてきたのかなどについて学ぶ。また、地球温暖化、災害、遺伝子治療など、現代的な諸課題について議論することにより、教科内容の理解を深めることを目指す。受講生の主体的、協同的な学びを取り入れた演習形式の展開を行う。 (1)理科の学習内容をその背景となる生物学・地学を基盤に理解し、児童・生徒が理解しにくい事柄や誤認識しやすい概念を見だし検討する。 (2)背景となる生物学・地学を基盤とし、教科書の学習内容の習得やこれから求められる科学的力を育成できる授業実践を模索することができる。 (3)現代的な諸課題の論点を整理できるようにする。 (授業計画に以下の内容を含む)	大学院	

区分	科目	担当教員	内容	
			<p>第 3 回：生命が置かれた環境がどのように生まれたかについて発表させ議論する。</p> <p>第 5 回：生命の変遷と環境のかかわりについて発表させ議論する。</p>	
環境マネジメントに関わる科目	環境と文化	田村和之	<p>環境を構成する様々な要因(自然要因, 人的・社会的要因等)間相互の関係性およびそれらの基礎的事項について, その成果を「人間と環境 I, II」へと発展的に活かすことを目標としつつ講義を行なうとともに, 現代社会の様々な議論を通して考究する。</p> <p>環境を主題としたプログラムの構築, カリキュラムの構築, 活動内容の企画・構想および教材の開発等をおこなうため, 人類と環境の様々な関係についての複眼的・総合的な観点から理解することを目的とし, 環境を柱とする様々なレベルでの実践的カリキュラムを構築するための基礎知識を多方面から吸収し, その知識を生きた知識へと導くための基礎が構築されることを到達目標とする。</p>	大学院
	人間と環境 I	田村和之	<p>環境教育における基本的な理念を学習し, 身近な伝統文化・伝統工芸品・自然や施設などを学習活動の教材としてどのように使用することができるかについて発表や討論を通して検証する。さらに, 環境と何らかの関わりを持ちながら生きている人々の社会的な活動や暮らしなどについて, 環境を主題とする学習活動のための教材として具備されるべき特性及びそれらの有効な活用について考える。</p> <p>環境学習プログラムにおける教材研究を通して, 児童・生徒から社会人など年齢を問わない人たちに自らと様々な環境との関係性を認識させるための教材の開発について探求することを目的とし, 人間とそれをとりまく環境との関係性を認識できる教材を探り, その方向性を見出すことを到達目標とする。</p>	大学院
	人間と環境 II	田村和之	<p>有効な環境学習プログラムの基本的な理念, 教材開発における成果をもとにした教材の, 学習活動における効果的な活用, 国内外でこれまで実践されてきた環境教育の事例についての研究および授業者の受講生に対する支援や評価のあり方などの文献を参考にしながら「環境を主題とする学習プログラム」の学習活動あり方を探る。環境学習における活動事例を通して自分自身と環境との関係性を意識化させるための学習活動プログラムの開発を検討することを目的とし, 環境教育教材開発に関する事例を扱った文献を通して, 環境を主題とする総合学習の授業のあり方を見いだすことを到達目標とする。</p>	大学院